

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0970700241		
法人名	社団医療法人英静会		
事業所名	グループホーム憩のもり		
所在地	栃木県日光市根室607-7 (電話) 0288-32-2006		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年8月29日

【情報提供票より】(平成19年6月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代 2,000円 ・おむつ代(1枚) 165円 ※いずれも利用した場合
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,520 円

(4) 利用者の概要(平成19年6月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森病院、田野井歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、社団医療法人英静会の開設するグループホームである。同法人の病院からは車で30分位離れた場所にある。高速道路入り口も近い。周囲には、今市青少年スポーツセンターがあり、ゴルフ場も点在していたりと、自然が多く森林浴もできる環境である。同法人の介護老人保健施設が隣接しているが、距離がやや離れており、良い意味でお互い干渉し合わないような立地となっており、大型施設の一角というような感じはなく、家庭的で温かい感じを受ける。職員は共同生活者として、恵まれた自然の中で入居者と「ゆったり」「たのしく」「いっしょに」生活している。一人ひとりの入居者の今をよく知り、ご本人にとって何がよいかを模索しながら懸命に本人本位の支援に努めている。管理者は看護師で、職員からも人望が厚く、入居者にも慕われており、みんなでこのグループホームをより良くしていきたいという意気込みを感じる。今後、この地域になくはならないグループホームになることが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は、異動して間もないが、評価が良質なサービス水準の確保を目的としていることを理解している。職員の異動人数が多かったことを逆に活かし、新鮮な目線で改善していく予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、異動して間もなく、初めての自己評価である。評価が良質なサービス水準の確保を目的としていることを理解しており、取り組んでいきたい内容についてまとめたところである。今後、どの点から、どのように取り組んでいったらよいか、職員全体で話し合いを持ち、全員で取り組めるよう担当制にしたり、それぞれの課題の中での取り組み順位を検討するなど、職員の異動人数が多かったことを逆に活かし、新鮮な目線で改善していく予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度の運営推進会議において、グループホームの行事紹介を行い、行事企画を中心に話し合っている。今後、入居者の現状報告や、日常のケア業務の実際も会議の中で報告していきたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に入居者の近況報告をしている。家族等から苦情が出るのが想定された今回の人事異動に関しては、文書にて報告をした。現時点では、大きな混乱にはならず、家族等にも理解を得られたように感じている。家族の不安を軽減するためにも、入居者の近況報告を通して、これからも家族からの信頼を得られるよう努力していきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々を招いての「もちつき」や育成会を通して子供たちとの交流ができています。また「どんどやき」への参加など地域行事への外出も試みた。自治会に加入している。今後、区長との連携を深めて交流に努めるつもりである。消防団との連携も考えている。地域の一員として活動に参加したり、ホームを活動の場所や交流の拠点として、地域に貢献したいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり」「楽しく」「いっしょに」といったケアに対する理念が盛り込まれているが、地域密着型としての理念は今後盛り込んでいく予定である。	○	現在の職員数で通所も可能なのか、行政に問い合わせ中である。ケアに対する理念に加え、職員全員で地域密着型サービスの理念づくりに取り組む姿勢があることから実現に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の言葉かけや態度等から、理念に基づく支援を実践している。新たな職員も加わったことから、理念の見直しも検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する民家は無く、地域との付き合いが希薄になりがちだが、運営推進会議に多くの方が出席したり、地元ボランティアや家族との関わりは密である。	○	ホームに関わる方々から自発的に意見や協力をしていただけるよう、運営推進会議などで「つながり」について話したり、自治会等で認知症の理解を深める機会を設けるなど更なる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は質のよいケアのために評価をして、その評価を活かして改善につなげていく一連の流れを理解している。今回の自己評価は、管理者が作成し職員にも見てもらった。	○	管理者は、評価が良質なサービス水準の確保を目的としていることを理解しており、取り組んでいきたい内容についてまとめたところである。今後、どの点から、どのように取り組んでいったらよいか、職員全体で話し合いを持ち、全員で取り組めるよう担当制にしたり、それぞれの課題の中での取り組み順位を検討するなど、異動人数が多かったことを逆に活かし、新鮮な目線で改善していく予定なので、実践に期待したい。

グループホーム憩のもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度くらいのペースで、地域交流や行事の企画を中心に話し合っている。会議での「憩のもりの行事に地域の方も招いては」との意見を受けて、会議参加メンバーの協力のもと、自治会・育成会・老人会に呼びかけ、育成会の子ども・お母さんを中心に30名あまり参加した。また、今後消防団の参加も調整したいと考えている。	○	運営推進会議の中からも、意欲的な声や情報が聞かれるようなので、メンバーの参加型の会議になるような運営にも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	共用型通所介護や医療連携体制加算などについて、またケアプランのあり方なども市に相談するなど、共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを作り、今月の予定や運営推進会議、職員の移動などについて家族等にお知らせしている。家族の訪問時には、入居者の近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等は直接、職員に訴えて不満を表していることが多い。ご意見箱を設置している。	○	職員全員で、家族等の意見の収集の方法や運営への反映方法について話し合っていくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度法人内での人事に多くの職員異動があったので、家族には文書で報告したが、家族からの苦情の心配、入居者への影響も懸念された。家族等の不安や不満を真摯に受け止め、入居者の様子に細心の注意を払っている。玄関には、入居者、来客の皆様にかかるようケアにあたる全職員の紹介を写真入りで表示している。	○	入居者や家族との信頼関係を深めていくためにも、馴染みの職員が継続的に対応できるよう更なる配慮を期待したい。

グループホーム憩のもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に順次、認知症介護実践者研修に参加することを推奨している。研修内容は全体の定例会等で発表したりしている。情報の共有化が遅れるため、研修から戻り次第随時に資料等だけ回覧をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者連絡協議会、ケアマネジャー協会に所属しており、職員も出張として参加できる状況になっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今のところ特に行っていない。	○	共用型通所介護への取り組みも検討しており、入居希望者宅を職員が訪問したり一日体験入居など、入居者の混乱を少なくする支援の方法を職員で話し合い、実践に活かす工夫を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人から学ぶという点で、入居者に対して人生の先輩である方々を敬う姿勢を大切にしておかかわっている。	○	入居者は、意欲・活動性とも高いように見受けられた。例えば食事の際の作業等をお願いする時に、指示しすぎず、敬意や親しみを込め本人の自発や自信につながるような声かけ等、支援のあり方を追求していくことを期待したい。

グループホーム憩のもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な場面で本人の自己決定を常に尊重するように努めている。	○	ホームとして、本人の希望や意向の把握について、職員側から更に積極的にかかわり、入居者個々人に合わせて実現可能なことを見つけ出ししていきたいと考えているので、具体的な支援に結び付けていくことに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は、介護計画書とアセスメントシートの相関性の必要を考慮しており、ケアプランの書式の変更も含めて、よりケアの実践に活かせるようにしたいと考えている。	○	書式の変更など職員全員で話し合いながら、より分かりやすく実践につなげやすいものに変えていくことを期待したい。また、ケアの内容を抽象的な表記ではなく、より個々人に合わせ、援助内容の具体を記載してみるなど、職員全員での共通理解、実践での活用がしやすくなるよう更なる研鑽を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を作成してから、3ヶ月～半年の間に見直しが行われている。定期的な見直しの前に入居者の心身に変化が生じた場合、随時、介護計画の見直しを行うように努めている。	○	介護計画作成の一連の流れに沿い、例えば職員の担当制を取り入れるなどしながら、より個々にあった計画の見直しをしていくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診など家族が同行できない場合は、ホーム職員が同行して受診し、本人及び家族に安心感を与えている。ホーム機能を充実すべく、共同型通所介護(定員3名)を検討している。		

グループホーム憩のもり


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内でも病院を運営しているが、本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医を決めている。病状により専門的治療が必要な場合には、法人の医師と相談し適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については入居時に方針を文書にして家族及び本人に配布し署名をもらっている。ホームでできる医療行為の範囲は医師と相談している。	○	今後想定される入居者ごとの具体的な対応方針について職員、家族、医師と話し合いを持つ場の設定を考えていることから、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の性格等を把握し、敬愛を持って言葉かけをしている。記録等の個人情報も適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、排泄等において本人のペースを大切にするため、見守り中心の介護に努めている。	○	更に、本人に希望や意向を聞き出すことで、その人らしいより充実した生活ができるような支援を心がけているので、実現を期待したい。

グループホーム憩のもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が豊かになるよう、入居者個々の力を活かしながら、職員と一緒に食材の買い物、調理、片付け等をしており、家庭的な対応をしている。	○	入居者は、意欲も高く、活動性も高い。その点を十分考慮に入れ、作業等をお願いする時に、指示しすぎず、敬いや親しみを込め本人の自発や自信につながるような声かけが職員皆でできるよう、話し合いを重ねていくことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日以外の午後1時半から5時まで入浴できる体制になっている。無理強いしないで希望を優先して楽しんでもらっている。	○	曜日や時間に左右されず臨機応変に対応していくことを考えているので、職員間の共通理解や連携を図りながら実現していくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事やガーデニング、新聞、テレビ視聴、カラオケ、動物とのふれあい、生け花等、役割や楽しみが感じられるよう職員が支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の様子を見ながら、食材の買出しに行ったり、散歩やドライブに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず、出入り際にはチャイムが作動し職員が気づく仕組みになっている。車椅子、ベッドなども含めて、身体拘束のないケアを実践している。		

グループホーム憩のもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震等の災害に備えて、入居者の安全を守るため地域の消防団や警察等と交流を持ち始めている。	○	更に災害時の具体的避難方法を含め、ホームとして訓練等実施したい意向がある。速やかな実現を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の摂取状況を1日全体を通じて大まかに把握している。入居者の好みや季節の食材を取り入れ、前日に献立作成している。水分は、3度の食事及びおやつ5回は確実に摂れるよう配慮している。既往歴・発熱時・入浴後、気温の高いときなどは特に水分補給に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールなどに季節の鉢物が置かれている。月に1回、生け花教室があり、入居者の生けた花が事業所のあちこちに飾ってある。ホールは天井が高く天窓があり、一部に採光を入れ快適である。季節により排水溝の臭気があり、排水溝用の洗剤等で対応しているが、季節により臭気対策には苦慮している。	○	ホールは、広く開放的であるが、ホールの片隅などで1人や少人数でくつろげる場所をついたて等で確保する検討をしてみることに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が以前使用していた家具やテレビ等が持ち込まれている。落ち着いて過ごせるような配慮がみられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。